



発行元  
東京新聞  
南千住東口専売店  
Tel 5850-3699  
発行責任者  
鬼塚 佳代子  
Tel 090-2657-0300

## ジョイフル三ノ輪商店街の歴史

以前、お話を伺った小林マツさん（明治44年生）、松田達弥さんのジョイフル三ノ輪商店街の記憶です。

関東大震災、東京大空襲からも免れ生き残ったジョイフル三ノ輪商店街。

明治時代、商店街のあたりは畑であつて、とどころどころに田んぼがあり、ドブ（水路敷）が幾つもありました。

商店街を南千住第一中学の方向に出て、右側にある中島弁財天（かつて弁天湯在り）裏から、瑞光公園まで弁天池がありました。鴨を取ることができ、弁天池の裏の竹藪では、青大将などの蛇がたくさんいました。

弁天池は埋め立てられ、買い取られた大名屋敷跡と共に銘酒屋（格子戸のところ）に穴があいていてのぞける）が約400軒立ち並び、酌婦は千人を超え、花街として栄えました。

大正2年4月に王子から三ノ輪橋間に王子電車が開通してから、徐々に三ノ輪に商店が集まりだし、大正6年花街が吉原向島に分散して、商店街ができました。当時、雑貨屋さん、餅米菓子屋さん、米屋さん、呉服屋さんなどが、軒を並べていました。三ノ輪銀座

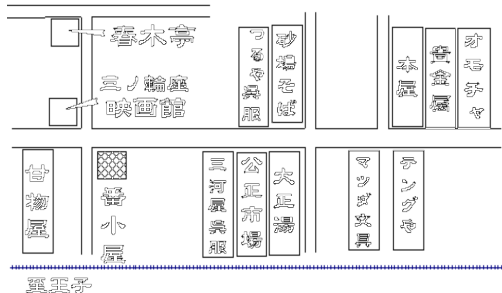
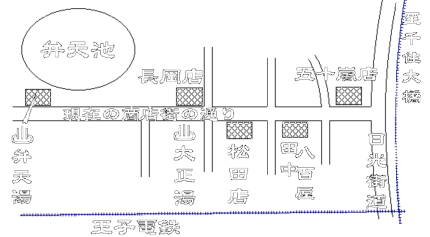
商店街が形としてできたのは、大正8年の秋のようです。商店街としての組織化は詳細は判りませんが、判明しているのは大正13年頃からです。

昭和初期にあつた三ノ輪座（映画館）の影響もあり、お客が急に増え、一日に千人位くるようになりました。

小林玩具店を営んでいた小林マツさんのお話によると、朝起きるとすぐに店を開け、三ノ輪座が終わる午後11時まで人通りが絶えず、年中無休で仕事をしていたそうです。仕入れは、都電に乗って蔵前まで行き、商品をふるしきに包んで背中に背負って帰ってきました。おもちゃ屋さんには最盛期で三ノ輪銀座で3軒ありました。

周辺には、たぐさんの飲食店ができ、春木亭「浪曲、漫才、チャンバラ」

三ノ輪新開地（大正8年頃）



梅吉さんは、浄閑寺あたりの夜店の元締でもありました。また大正湯（大勝湯）横に公正市場（昭和初期）昭和15年位まであり、床屋さん、米屋さん、肉屋さん、など20店舗程があつた屋根のついたマーケット）があり、これも発展につながりました。

戦前から、戦後にかけて人口が急が増え、新開地周辺は、ドブに沿って百軒長屋、千軒長屋、棟割り長屋ができ、住居と家内工業（玩具・皮屋さん）を一つにしたものが多くありました。

昭和53年12月にアーケードが完成し、三ノ輪銀座商店街はジョイフル三ノ輪に生まれ変わりました。

7月の七夕飾りは、商店街の各班が競って飾りツケをし、縁日大会も、以前は、盆踊り大会をしており、商店街の人々も参加して踊り、見物客で賑わいを見せていました。

イトーヨーカドーができてから、商店街の活気が落ちてきましたが、毎月11日は中島弁財天の日と商店街の売出しを行っています。

